

ホクコーオンリーワン®フロアブル

■種類名：テブコナゾール水和剤
 ■有効成分：テブコナゾール----- 20.0%
 ■化管法指定物質：テブコナゾール [第1種] ----- 20.0%

■登録番号：第21320号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
 ■登録初年：2004.08.04
 ■性状：類白色水和性粘稠懸濁液体
 ■有効年限：3年
 ■包装：250ml×40本

【特長】

- 従来のDMI剤と比較して広いスペクトラムの活性をもつ。
- 茶の炭疽病・もち病・褐色円星病をはじめ、果樹・野菜の各種病害に効果を発揮する。
- 処理葉全体に均等に分散する傾向が強く、安定した効果を発揮する。

【適用内容】(2024年11月末日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テブコナゾールを含む農薬の総使用回数	
りんご	モニリア病、斑点落葉病 黒点病、うどんこ病、褐斑病 灰色かび病、赤星病	2000	200~700 ㍓/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	黒星病	2000~4000						
おうとう	灰星病、炭疽病 黒斑病、褐色せん孔病	2000		収穫前日まで				
もも ネクタリン	灰星病、ホモプシス腐敗病 黒星病、うどんこ病、炭疽病							
かき	炭疽病、うどんこ病、落葉病	2000~3000		200~700 ㍓/10a				収穫21日前まで
	灰色かび病	2000						
かき(葉)	炭疽病、うどんこ病、落葉病	3000		2000~4000				収穫前日まで
なし	輪紋病、黒斑病、うどんこ病 赤星病、黒星病							
小粒核果類 (うめを除く)	黒星病、灰星病	2000		200~700 ㍓/10a				収穫前日まで
うめ	黒星病、すす斑病、灰星病							
ぶどう	晩腐病、黒とう病、さび病 灰色かび病、うどんこ病 すす点病、褐斑病、白腐病							
いちじく	株枯病		5~10 ㍓/樹	生育期 但し、 収穫前日まで		灌注		
ねぎ	さび病、黒斑病	1000	150~300 ㍓/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布 無人航空機による 散布	3回以内	
		8	1.6 ㍓/10a					
		16	2.4~3.2 ㍓/10a					
わけぎ あさつき	さび病、黒斑病	1000	150~300 ㍓/10a	収穫前日まで	3回以内	散布 無人航空機による 散布	3回以内	
たまねぎ	灰色腐敗病、灰色かび病	8	1.2~2 ㍓/10a					
		16	2.4~4 ㍓/10a					
しそ	さび病	4000	150~300 ㍓/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内	
やまのいも やまのいも (むかご)	炭疽病、葉渋病	1000	100~300 ㍓/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布 無人航空機による 散布	3回以内	
		16	1.6~3.2 ㍓/10a					
		32	3.2~6.4 ㍓/10a					
にんにく	さび病、葉枯病 白斑葉枯病、黄斑病	1000	100~300 ㍓/10a	3回以内	3回以内	散布 無人航空機による 散布	3回以内	
		8	0.8~2.4 ㍓/10a					
		16	1.6~4.8 ㍓/10a					

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	フコナールを 含む農薬の 総使用回数
キャベツ	菌核病	1000～2000	100～300 ㍈/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	3回以内
にら	さび病			収穫14日前まで			
にら(花茎)				収穫前日まで			
しょうが	白星病	2000	100～300 ㍈/10a	収穫3日前まで	無人航空 機による 散布		
		32	3.2 ㍈/10a				
		50	3.2～6.5 ㍈/10a				
		100	5～13 ㍈/10a				
未成熟 そらまめ	さび病	4000	100～300 ㍈/10a	収穫前日まで	2回 以内	散布	2回以内
茶	炭疽病、もち病、褐色円星病	2000～3000	200～400 ㍈/10a	摘採7日前まで			
	新梢枯死症、網もち病	2000					
ホップ	うどんこ病	1000	200～700 ㍈/10a	収穫14日前まで	3回 以内	散布	3回以内
ゆり	乾腐病	50	—	植付前又は 貯蔵前	1回	1分間 球根浸漬	1回
チューリップ	球根腐敗病			植付前		15分間 球根浸漬	
りんどう	葉枯病、花腐菌核病	2000	200～300 ㍈/10a	発病初期	5回 以内	散布	5回以内

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 本剤は貯蔵中に分離することがあるので、使用に際しては容器をよく振ること。
- りんごのモニリア病に対して使用する場合、葉腐れの初期病斑発現直後に散布して、実腐れの発生を予防する目的で使用すること。
- 本剤は茶の新梢枯死症に対して、その他の病害との同時防除に使用できるが、多発が予想される場合には効果が劣る場合があるので注意すること。
- はくさい、だいこんに対して薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合はかからないよう注意すること。
- 使用液量は対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせ調節すること。
- いちじくを使用する場合、生育抑制などの薬害のおそれがあるので、ポット栽培などの根域が抑制される栽培条件や、移植一年目の幼木での使用はさけること。
- キャベツに使用する場合、重複散布をさけること。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ◆ 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - ◆ 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ◆ 散布薬液の飛散によって動植物の被害や自動車の塗装等に被害を与えるおそれがあるなど、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
 - ◆ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
 - ◆ 散布終了後は次の項目を守ること。
 - ① 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に処理すること。
 - ② 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
 - ◆ ねぎに使用する場合は、葉面に薬液による汚れが生じるおそれがあるので注意すること。
 - ◆ 蚕に対して影響を及ぼすおそれがあるので、養蚕で使用する桑葉にかからないようにすること。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ※ 誤飲などのないように注意すること。誤って飲み込んだ場合は吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けさせること。
- ※ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ※ 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ※ 魚毒性等：浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ※ 保管：直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管すること。